

八〇	七三	六二	五一	四〇	三〇	二〇	一〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	電 機	電	電	電	電	電	電
武藏	利根	利根	利根	利根	利根	利根	利根	利根	利根	利根
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
自力航行可能ナリ	速力二千節トナセ	同艦ノ遂ニ管見レ	利根、武藏艦長、指揮ヲ受テ	東方二千節トナセ	香取頭之字運動又始メ	電	電	電	電	電
				右對空戦ヲ						

1893

204

八〇〇	初春	八三〇	武藏	八三三	武藏	八三六	武藏	八三九	武藏
八〇〇	初春	八三〇	武藏	八三三	武藏	八三六	武藏	八三九	武藏
外	外	一部隊	一部隊	一部隊	一部隊	一部隊	一部隊	一部隊	一部隊
無	無	電	電	電	電	電	電	電	電
敵艦上投十回ノ故障ヲ受シ 地点「三ノイ」ニ島灯台東麓集 被爆命申弾一至迄彈一航行 不能	無	電令作第「三ノイ」 天祐ヲ確信シ今重電突進也	左船内軸ミ運轉可能據飛 可能	速力三節ト也	二三度ニ右ニ回頭 利根ハ序隊ニ復取也	一尋回頭之字運動時刻始 メA也	速力三節ト也	終部指揮官宛石山遺信察 隊指揮官	一五三七武藏沈没 一五三九武藏沈没

1944 215

	艦	艦	艦	
情速報セヨ	艦隊	外	外	艦隊
島東方及口手湾に艦隊敵	無	電	電	艦隊
艦隊敵情速報セヨ	艦隊	電	電	<p>一 敵機動部隊第一群航空母艦二巡洋艦五駆逐艦十六〇七炮艦二四子針路三五度</p> <p>第二群航空母艦二隻(航空母艦大空四隻特設母艦二隻)八二五</p> <p>地空一二三四五群航空母艦二隻</p> <p>右四地空二八サ</p> <p>三 第一群及第二群に對し天山六校(内雷装四)水爆五校陸攻三校(内雷装一)ヲ以テ陸攻隊内第一群に對シ極力</p>
			45	

三〇八 公恩官	船長	無	<p>宗敵攻奪ニ努メタルモ天候不 良ノ為ニ群ニ向ヒツアリ 旗形ヲ鬼怒ニ變更セリ</p>
三五五 指揮官	艦隊	無	<p>ハガツル此島東岸ヲ南下 タロバンニ突入ス</p>
三三三 初長	哨一三 特七 外	無	<p>那當今作第ニ三三三號 運備出来次第速ニ武蔵ノ 所在地ニ急行同艦長指揮ヲ 受クニ武蔵ニ四日一六〇位 買(マスハラ)ヲ北端ノ五度運</p>
三三三 指揮官	船長	無	<p>那方ニ攻メ艦内巡行艦六輕 巡三艦艦艇ニ于五日〇〇カ ルカクハ海峽進出サルト島 東方沿岸南下于五日〇〇カ 頃ハ艦ヲヤルモ同日二〇頃 以テ正泊地ニ突入ノ事定</p>

145

36

	三三	三三	
	三三	三三	
	三三	三三	
電	無	電	
<p>PP 主力ハ全滅ヲ睹シタツルハシ 海地ニ突入敵部隊ヲ殲滅セシ トス 航空部隊ハ全方ヲ奪 テ敵機動部隊攻奪ヲ遂行 全軍ノ作戰目的達成ニ挺身 セラレテト切望ス</p>	<p>無</p>	<p>電</p>	<p>二第三部隊ハ予定通リイテ 地突入後予定日22日23日 島ノ北東ニ宿陣ス 要修繕完成同全方統制可能</p>
	45		

三五五 師団長 官	三五五 師指揮官 官	三五五 師司令部 官	三五五 師司令部 官	三五五 師司令部 官
無電 邪三〇ノスリガオ水道南口通 過速力平方部ヲ突入予定	電 師司令部 三五五ノ	電 敵魚雷艇ヲ擱擻シツテ定 通直中	電 突進戦ヲ準備ハ	電 本隊ニ至日ノ方ニ地帯ハシテ 針路面ニ速度力ニテ師前 行及移ハ本隊ニ合同セヨ

40

〇〇〇 25 夏官		長 方謀	11B 指揮官
11B 4B		11B (11B)	11B
電	電	無	無
<p>ツアリ 見タル外敵情不明天候ス コールア視界が漸次狭クナリツ ツアリ</p>	<p>二依ノ輕キ雨アル見込 三。スリカラ水道南口通過 ロイノ湾突入魚雷艇数隻ヲ 見タル外敵情不明天候ス コールア視界が漸次狭クナリツ ツアリ</p>	<p>三五日ロイノ湾外海ヲ想目 出前晴乃至芸雲日出ト同 時ニ中層雲増大午後下層 雲發生スルコトアルモ降雨ナク 隙間アリトイフ湾南西部所 ニ依ノ輕キ雨アル見込</p>	<p>三度ニ左ノ音回頭東方ニ示部止 電波測定の始メ</p>
			<p>二相違編本奄美大島三回航 補給ノ上速ニ合同スベシ (二十日廿五日)</p>

〇二	2YB 指揮官								
〇一	指揮官								
〇三	指揮官								
〇四	指揮官								
〇五	指揮官								
〇六	指揮官								
〇七	指揮官								
〇八	指揮官								
〇九	指揮官								
〇一〇	指揮官								
〇一一	指揮官								
〇一二	指揮官								
〇一三	指揮官								
〇一四	指揮官								
〇一五	指揮官								
〇一六	指揮官								
〇一七	指揮官								
〇一八	指揮官								
〇一九	指揮官								
〇二〇	指揮官								
〇二一	指揮官								
〇二二	指揮官								
〇二三	指揮官								
〇二四	指揮官								
〇二五	指揮官								
〇二六	指揮官								
〇二七	指揮官								
〇二八	指揮官								
〇二九	指揮官								
〇三〇	指揮官								
〇三一	指揮官								
〇三二	指揮官								
〇三三	指揮官								
〇三四	指揮官								
〇三五	指揮官								
〇三六	指揮官								
〇三七	指揮官								
〇三八	指揮官								
〇三九	指揮官								
〇四〇	指揮官								
〇四一	指揮官								
〇四二	指揮官								
〇四三	指揮官								
〇四四	指揮官								
〇四五	指揮官								
〇四六	指揮官								
〇四七	指揮官								
〇四八	指揮官								
〇四九	指揮官								
〇五〇	指揮官								
〇五一	指揮官								
〇五二	指揮官								
〇五三	指揮官								
〇五四	指揮官								
〇五五	指揮官								
〇五六	指揮官								
〇五七	指揮官								
〇五八	指揮官								
〇五九	指揮官								
〇六〇	指揮官								
〇六一	指揮官								
〇六二	指揮官								
〇六三	指揮官								
〇六四	指揮官								
〇六五	指揮官								
〇六六	指揮官								
〇六七	指揮官								
〇六八	指揮官								
〇六九	指揮官								
〇七〇	指揮官								
〇七一	指揮官								
〇七二	指揮官								
〇七三	指揮官								
〇七四	指揮官								
〇七五	指揮官								
〇七六	指揮官								
〇七七	指揮官								
〇七八	指揮官								
〇七九	指揮官								
〇八〇	指揮官								
〇八一	指揮官								
〇八二	指揮官								
〇八三	指揮官								
〇八四	指揮官								
〇八五	指揮官								
〇八六	指揮官								
〇八七	指揮官								
〇八八	指揮官								
〇八九	指揮官								
〇九〇	指揮官								
〇九一	指揮官								
〇九二	指揮官								
〇九三	指揮官								
〇九四	指揮官								
〇九五	指揮官								
〇九六	指揮官								
〇九七	指揮官								
〇九八	指揮官								
〇九九	指揮官								
一〇〇〇	指揮官								

共ニハルナシノ海峽
 邊ヲ三接敵度ノ列
 向侵入

電	電	電	電	電	電	電	電
電	電	電	電	電	電	電	電
<p>電 〇三〇他真ノ工三又八海五群 地莫毛三万海由群(大)〇〇 一四ケ(海三群(大部隊)〇三〇 海三群(敵ラキ毛)〇五〇地真ヤ 他二〇〇四〇地真(海三群) 第一群(大部隊(大)〇〇四其 飛行艇電探索敵綜合情報</p>	<p>電 一應戰場ヲ商脱シ后圖ヲ 策メ 當隊裝束終了</p>	<p>電 直ノヲ撤セヨ</p>	<p>電 戦斗連隊第一機 不才才水邊、北口西側ニ敵死 運搬魚雷艇アリ味方駆逐艦ニ 被雷路弋中山城被雷一戦 斗航上海ニ各障ナシ</p>	電	電	電	電
電	電	電	電	電	電	電	電

三三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
			〇								

二三。地号台三ノ。右内第一群ト第二群ト同部隊算アリ(何モ航空機也)

格七本見云

先自格七機母艦及此洋艦其心ヲ敵機對空射撃開始

敵空母三隻其他約十隻見

方手出航也

敵空母二隻同度機

ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
		ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
	艦隊	艦隊	艦隊									
身	信	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
	展開方向二三度	第十一戦隊方向二三度	十二戦隊方向二三度	敵子手横見之我子手方二三度	敵子手横見之我子手方二三度	敵子手横見之我子手方二三度	敵子手横見之我子手方二三度	敵子手横見之我子手方二三度	敵子手横見之我子手方二三度	敵子手横見之我子手方二三度	敵子手横見之我子手方二三度	敵子手横見之我子手方二三度

批着信艦
我子手方位二三度
信

敵子手横見之我子手方二三度

七〇	七七	七五	七四	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇
河母	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
八廿	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
無	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
武藏護イノ多陸政七校	敵向	敵空母ハ六隻(從艦中)	上右二度一斉回頭	敵、画面ヲ反轉ス ヨリ音艦ヲツツアリ	敵艦常夜水見失フ	我南側ニ出ル	CB BB突撃シタ	敵空母ノ位置ヲ五度 同セカ	地妻アルマ川第ニ割陸ハ合	水戦後ヲ續行セカ	我敵艦(空母六)ト交戦中	我敵空母三隻ヲシテ戦術
	敵艦ニシテ副砲射所											

リ	巴	三	リ	リ	リ	三	三	三	三	三
公	指	指	指	指	指	指	指	指	指	指
司	揮	揮	揮	揮	揮	揮	揮	揮	揮	揮
官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官
IS	IB	IB	外	外	外	外	外	外	外	外
リ	認	信	電	無	信	リ	リ	認	無	電
IS	信	敵	敵	敵	敵	敵	敵	敵	敵	敵
右	重	空	空	空	空	空	空	空	空	空
三	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方
度	向	向	向	向	向	向	向	向	向	向
一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
回	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度
頭										

又三 鳥	又三 鼠	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹
又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹
又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹
又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹
又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹
又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹
又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹
又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹
又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹
又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹	又三 鷹

空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母
空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母
空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母
空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母
空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母
空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母
空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母
空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母
空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母
空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母	空母

南東方向に空母ナシ

我航行不能

横河川西側方向に敵空母ヲ
発見セリ
三ノ度方向に大傾斜セル
敵空母ヲ認めタリ(全五回)

突撃セヨ

我西側方向に空母ニ向テ

二行ヲ任テ空母ニ突撃ス

空母一ノ我ヨリノ方位ニ一ノ度ニ向テ

空母一ノ我ヨリノ方位ニ一ノ度ニ向テ

方位ニ一ノ度ニ向テ

更ニ敵空母ニ見出シ我ヨリノ

二行

敵空母位置我ヨリノ方位ニ一ノ度

察知セリ

位置ヤニシテ針路南東速ニ
ヲ発見偵察艇接ヲナスト其ニ
部ヲ以テレイテ湾附近ヲ偵

大傾斜セル

五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇		
/	/	11B 指揮官	了一分	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	11B 指揮官	
不翼官	/	11B	11B 指揮官	21B 指揮官	11B	11B	11B	11B	11B	11B	11B	11B	11B	11B	11B	11B	11B	11B	11B	11B	11B	11B	11B	11B	11B	11B	
/	/	/	証	証	証	証	証	証	証	証	証	証	証	証	証	証	証	証	証	証	証	証	証	証	証	証	
敵特設空母、我ヲリ、方位三〇、二度巨雷アリ	我針路概不先連刀三ノ節	敵空母ハ東	我出シ得比連刀三ノ節何高キヤ	トイテ急降下、敵情知ラセ	突進セヨ	全軍逐次合同日針路の度速刀三ノ節	逐次集結	我中部に雷電大命中飛行不能	先敵空母沈没ルヲ認め	二百度方向に敵空母三アリ	匣中	天の度方向空母二隻アリ、一は匣中	空母ハ一發匣中	左ノ空母三向ノ													

1897

220



	リ			リ	リ
リ	リ	IR 指揮官	長 (IR 指揮官)	リ	大和
IR 戦艦 船隻 小所	250	IR	リ	125	大和
リ	リ	リ	リ	リ	無
<p>IR 戦艦 一八号 IR 戦艦</p>	<p>速ニミウロ IR 戦艦</p>	<p>敵空母見我リ</p>	<p>IR 戦艦中 敵校動部隊ニ対シ 援ヲホメツツアリ</p>	<p>敵ハ南下ニツツアリ</p>	<p>本艦ハ信濃セリ ヨリノ方位ニ七度</p>
<p>IR 戦艦 一八号 IR 戦艦</p>				224	<p>大和五度下ヲ発見</p>

一〇五	一〇四	一〇三	一〇七	一〇六	一〇五
	夕		夕	仰指艦官	二二五
	形高		夕	250 夏空官外	仰指艦官
	形高		夕	夕	纏
	外路の度		敵情知ラセ	其降攻の島海邊警戒トナレ	二我ハ取敵ハ先進中 一六〇度方向、敵空母三隻及駆逐艦七隻ニテ特選 圧接スル之ヲ望ミ
	水中音響探査方向感一				大聖) 申巡ニ駆逐艦三隻中 摩羅突止多空母一二隻敵 核及空母未定中 残敵(空母六一七基降)ハスル 及燈塔ヲ利用シ南東方向ニ 避退セリ被害大古モノ鳥海 録嘆息ヲ其ノ他調得中
	見	大和ノ三枚機墜 六度方向ニハ二枚発			
	日				
2016					

三三	三三	三〇	三七	三五	リ	三三	三〇	三三	二四七	二四五
リ	リ			リ	リ	BB		公費官	リ	
總長留 金外	艦防			リ	リ	BB		リ	BB	
電	無	輪		リ	リ	輪		輪	信	
水道突防隊下 地奥ヤモ	サール東岸北 上ヲ敵救助部 隊ヲ決戦後サ ルルヲ	三〇度ニ右 ノ向		二四〇度ニ左 ノ向	一度方角ニ ノ向	東方ニ面 シテ		沈没ノ一 隻ハ大火災	毛ノ度ニ左 ノ向	空母ヲ令 シテ救助部隊 及南東 方ニ大部隊 アリ
		三度高 三枚見云				三枚集 陸			長 一甲救助 隊ヲ出 發	

三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ	我速力二千四百トナリ
大和、二機降陸																				
24日	24日																			

大和	艦隊	機														
イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ
イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ
イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ

0.76

201

五五	五五	五五	五五	五五	五五	五七	五五	五二	五三	四九	四九	四六	四六	三五	三五
	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ		リ
	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ		リ
	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ		リ
	三〇度左	九〇度左	一〇度左	五〇度左	陳力平	三〇度左	敵空母	陳力平	一〇度左	外路	我軍	我軍			陳力平
	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左		四度左
	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左	四度左		四度左

296T

228

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

〃
 (X1) 5.2.8 (10.8.11) 3rd 結代
 〃
 (X2) 5.2.8 (10.8.11) 3rd 結代

〃
 内、遠、戒、服、散、不、(10.8.11) 1.8.7.30

〃
 廿六、心、水、道、匪、入、要、領、考、列、括、記

〃
 陳、力、千、山、切、ト、也

〃
 三、度、二、右、首、回、頭

〃
 三、度、二、左、首、回、頭

〃
 我、斜、路、三、〇、度

〃
 我、斜、路、三、〇、度

〃
 我、單、獨、面、飛、回、避、ヲ、ス

〃
 我、斜、路、三、〇、度

〃
 我、單、獨、面、飛、三、〇、度

〃
 三、〇、度、之、字、運、動、始、マ、レ、タ

〃
 三、〇、度、之、字、運、動、始、マ、レ、タ

〃
 我、單、獨、面、飛、三、〇、度

〃
 我、單、獨、面、飛、三、〇、度

〃
 我、單、獨、面、飛、三、〇、度

〃

大、志、在、此、伊、部、三、〇、度、正、靜
 目、止、レ、

左、前、〇、旗、ハ、ハ、性、ト、ス、也

二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一
リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ
									指揮官					指揮官
BB	指	指	指	指	指	指	指	指	指	指	指	指	指	指
電	電	電	電	電	電	電	電	電	電	電	電	電	電	電
陣方 千由部トナ也	陣方 千由部トナ也	陣方 千由部トナ也	陣方 千由部トナ也	陣方 千由部トナ也	陣方 千由部トナ也	陣方 千由部トナ也	陣方 千由部トナ也	陣方 千由部トナ也	陣方 千由部トナ也	陣方 千由部トナ也	陣方 千由部トナ也	陣方 千由部トナ也	陣方 千由部トナ也	陣方 千由部トナ也

自ニ之字運動ヲ実施ス

一射停止

大和ニ一校連日ニ三度
方回頭及急降四校見

248

249

9987

230

	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三		リ	リ	リ	リ	金田
	リ	リ	リ	リ					リ	リ	リ		指揮官
	(シブ目外) ホクサン	リ	リ	リ					リ	リ			リ
電	無	リ	リ	リ		リ	電	無	リ	リ	リ	リ	誠
二十日 三	一、當路行動予定	速力二二部トモ	速力十六部トモ	方向信号灯使用差支ナシ		二二部即特待投	速力二二部トモ	傷ヲ見サリ 戦場ヲ揚中ノ各艦ノ 速力地点行動予定知ラセ	艦空部隊敵機動部隊攻撃 中敵味方誤認ノ虞アリ 損	先等艦向岸見ヨ	先等艦向岸見ヨ	先等艦向岸見ヨ	対空対策急ニ成ヲ最ニヨ

026T 231

三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九
高良	司令官	司令官	司令官	指揮官	指揮官	指揮官	指揮官	指揮官	指揮官
YB	YB	YB	YB	YB	YB	YB	YB	YB	YB
電	電	電	電	電	電	電	電	電	電
<p>敵見ユ我ヨノ方位二三〇度 三〇度方向潜水艦発見 五〇度方向潜水艦水中音探知 五〇度方向魚雷音ヲ用ク 本三五日電隊ヲ空襲セシムノ及 敵航空母ヲ失ヒ名敵艦上機 相當數ヲクロシンニ撃中セルヲ 確実トシテ我隊ノ好戦小隊ヲ 突撃砲戰重電戰ニ備ヘ</p>									
285	330								

(十月二十六日)

三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
長門	長門	艦隊	艦隊	艦隊	艦隊	艦隊	艦隊	艦隊	艦隊
信	信	信	信	信	信	信	信	信	信
本艦消費彈藥(残弾概数)	速力三ノ部トナ也	華等至急報告ト云	戦中三依ル人員形体培養救 肉ノ損傷概況並ニ補充ヲ要 スル人員(各月三區ノ)兵船解 華等至急報告ト云	當隊又刻ニ三ノ入港迄出港 待テ	本自ノ戦中ニ於テ実彈及砲臺 ニ依リ死傷者若干形体及砲臺ニ 輕微右被害アリ至戰中ニ支障 ナシ	三四節時待候ト也			
								三五度ニ變針	
								二七度ニ變針	
								三三度ニ變針	
								二八度ニ變針	

39 附

リ	又	又	リ	又	又	又	又	又	又
長門		リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ
艦		所小	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ
艦		電	無	リ	リ	リ	リ	リ	リ
七度力同艦上校見ユ		二五度四七埋針路三三度速力二三節	敵艦上校五枚見ユ我艦接中我八〇〇位置ヨリ水上基地	逆力二四節ト云	三三度方向二見ユ	南四度三三米	一度方向二ハヲ探知	針路三三度ト云	砲三三〇(四〇〇)枚後三三〇〇(五〇〇〇)
	先ノハヲ見失フ								

又

本通

五五	リ	九〇	九五	一〇一	一〇五	一〇八	一〇九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
	リ	リ	リ	リ		リ	リ	リ	リ	リ			リ	リ
	鴨 隊	リ	リ	リ		リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	無 電	無 電
	速方手節トナセ	我針路三五度トナセ	我針路三七度	我單獨面航三回避ス		我單獨面航三回避ス	我針路五度	我針路五度	我針路五度	我針路五度	我單獨面航三回避ス	我單獨面航三回避ス	我敵艦上校三手校ト交戦 中	我單獨面航三回避ス
	三四度ニ要針					射撃ヲ止ム					大發射甲校ニ直出弾			
40°														射撃開始

40

〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓

〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓
 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓
 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓
 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓
 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓
 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓
 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓
 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

2081 2/11

三	二	一	三	二	一	三	二	一	三	二	一	三	二	一	三	二	一	三	二	一	三	二	一	
リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ
毛度ニ左ニ背回頭	毛度ニ右ニ背回頭	毛度ニ左ニ背回頭	毛度ニ右ニ背回頭	毛度ニ左ニ背回頭	毛度ニ右ニ背回頭	毛度ニ左ニ背回頭	毛度ニ右ニ背回頭	毛度ニ左ニ背回頭	毛度ニ右ニ背回頭	毛度ニ左ニ背回頭	毛度ニ右ニ背回頭	毛度ニ左ニ背回頭	毛度ニ右ニ背回頭	毛度ニ左ニ背回頭	毛度ニ右ニ背回頭	毛度ニ左ニ背回頭	毛度ニ右ニ背回頭	毛度ニ左ニ背回頭	毛度ニ右ニ背回頭	毛度ニ左ニ背回頭	毛度ニ右ニ背回頭	毛度ニ左ニ背回頭	毛度ニ右ニ背回頭	毛度ニ左ニ背回頭

四〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇
り	り	り	り
り	り	り	り
り	り	り	り
二八度二右一右回頭	三〇度右一右回頭	三五度右一右回頭	及 不負戦死四七(四)負傷三(三)皆死 内八進士信止 二、爆彈命中三依止 被害 短歌中枝被口直蛋十六米 信指揮密山部悪信堂燃燈持場儀 造工場三言堂燃堂カク一火破 五匠潭三依止被害 體首外飛 水綿上約束被口其他外飛水綿 上山被口約八〇長水筒山部山口 二個所外飛水防区剛重清シクニ 若手浸水アリ 三、豆巻使用 不能モノ 副砲四門高射器一 接軌二探照灯三三号電探之七 受信機七 鑑査器一及國隊設置

五八	五八	
長内	指揮長	
八	113	
號	號	
本自送、本船戦果	五八度左齊回頭	<p>管制部全部 四補元ノ要之 人員 (張) 高砲六 (大五五中 口五五、高射機用等) 共計八 五章六 (一) 暗号士 五章八 長 電信員 五 暗号員 五 五章五 (内) 工作員 三 一校 校号三 五補元ノ要之五章砲彈藥 一五章 十四機砲電鏡 一五三 号電機配電盤 一機燈付 一電鏡 三基分 破損 電信機 一五章 (一) 彈藥長内ノ大ノ報 告、他消耗 五砲要式彈 一五章 副砲五、高用砲 三 校鏡 五四。</p>

五	五	五
リ	リ	船
リ	リ	隊
リ	リ	リ
<p>凡バ利根堂<small>（六割）</small>ノ上<small>（五割）</small>ノ下<small>（四割）</small>ニ至ルニ至リ 三吉位先頭股水路ヲ御守ス</p>	<p>高凡岸波浦川、秋霜及 波直ニコソレ直航急速補給 西出ル予定</p>	<p>ト唐陸三三 手五目ノ戦ヲ三於テ三砲弾敵 空母ニ命ケ火災副砲弾敵 巡ニ命中ヲ確認</p>

三	二	一	〇	三	二	一	〇				
リ		リ			リ		リ				
リ		禮			リ		リ				
リ		リ		号	信		リ				
針路ニ七度トスル令ナクニテ 係五ノ變或航行序列ニ五倍ヲ 二〇〇ニ至スル第ニ才變或航行 序列ニ五倍ヲ 針路ニ度速力ノ八節ニ至ス。 三至スニ齊回頭ニ才運動時 刻法總々A法				号 三ノズルネイ着ノ才定 信 信ハコソレ入泊ヲ取止メ本月夕 刻リ大カニ島南口水邊ニ至 テ新南群島通過ニ才自刻				指示順序ニ縱陣列制レ 我速力ニ才節			
針路ニ三ノ水邊通過				三〇度ニ變針				三〇度ニ變針			
				300				200			

五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五
肥後	肥後	肥後	肥後	肥後	肥後	肥後	肥後	肥後	肥後	肥後
一部隊	一部隊	一部隊	一部隊	一部隊	一部隊	一部隊	一部隊	一部隊	一部隊	一部隊
夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕
之字運動止	之字運動止	之字運動止	之字運動止	之字運動止	之字運動止	之字運動止	之字運動止	之字運動止	之字運動止	之字運動止
八度ニ要針	八度ニ要針	八度ニ要針	八度ニ要針	八度ニ要針	八度ニ要針	八度ニ要針	八度ニ要針	八度ニ要針	八度ニ要針	八度ニ要針
180	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180

三	三	
	<p>三五度ニ要針</p>	<p>左ニ依リ急遽補給ヲ實施ス 一使用可能モノ尙載 二雄鳳丸ハ大和ニ横付其外 側ニ矢矧ハ紡丸ハ長内ニ横 付其外側ニ利根 万葉丸ハ 金剛ニ横付其外側ニ羽黒御 室出ハ勝(又浮川) 島凡ニ 供給(同時實施) 右棧名ニ 横付其外側ニ多々横付秋 霜ハ高雄ニ横付</p>
ス	<p>朝鮮合同北路測量</p>	
	125	

五三	五二	五〇	四八	四三	四〇	三〇	二〇	一〇
り				り				り
り				り				り
り				り				り
地ニ就泊セヨ	捕鯨船ヲ入港各隊指定船			直チ配備ノ徹セヨ	其ノ他隊ニ變戒配備	六〇ヨリ一八〇迄緊急配備	今迄、カネノ在泊中ノ電	波明戒配備ヲ左ノ如ク
	八〇度ニ變針	三〇度ニ變針	一八〇度ニ變針					
	八〇	一七〇	一八〇					

46

作戰要圖

十月二十日

○七。長門塔載校ヲ大和武藏ニ分載ス
 長門整備員下士官等ヲ武藏ニ依止ス
 ○七五。石司令部水偵隊ニ由連部員依連水偵隊指揮官ノ指
 揮下ニ入ル
 基地連絡ノ任ヲ階級ハスバハソフホニソクセサ至因サホセニ匪出ス
 (搭乗員出雲上飛曹、綱老少佐、杉森上飛曹)

長門	武藏	大和
大和武藏 ニ分載ス	長門二号校 武藏二号校 武藏一号校 武藏二号校 武藏二号校 武藏二号校 武藏二号校 武藏二号校	長門一号校 長門一号校 長門一号校 長門一号校 長門一号校 長門一号校 長門一号校 長門一号校
	寺元少尉 寺元少尉 寺元少尉 寺元少尉 寺元少尉 寺元少尉 寺元少尉 寺元少尉	内田少尉 内田少尉 内田少尉 内田少尉 内田少尉 内田少尉 内田少尉 内田少尉
	桶本上飛曹 桶本上飛曹 桶本上飛曹 桶本上飛曹 桶本上飛曹 桶本上飛曹 桶本上飛曹 桶本上飛曹	今泉中尉 今泉中尉 今泉中尉 今泉中尉 今泉中尉 今泉中尉 今泉中尉 今泉中尉

十月三十一日

航空作戦ナレ 午後各艦艇航行校ヲ格納ス

十月二十四日

航空作戦ナレ 武蔵艦傷ニ件ヒ同艦搭載中ノ観測校五校(武

蔵ニ号後 長門ニ号後 信管校ニ校)損耗セリ

十月二十五日

少大和ニ号校

信務 対勢観測隊有観測

信務

八二五 射出發艦任務ニ就ク

八二〇 空母ニ大火災其ノ他ノ敵南東ニ避退ヲ開始シテ報告ス

八二五 射出后約十分ニテ 敵戦斗校(三校)ノ追跡ヲ受テ雲

中ニ避退シテ航ヲ試シ 觸接ヲ持續ニ努ムルモ道ニ觸接ヲ失

附且モ煙圈ヲ搜索スモ敵影ヲ認めズ 被弾ノ多ク發動校

不調且ノ敵校ノ妨害甚クテ天候不良視界ヲ狭小ナリ

為觸接ヲ断念ス。九三。基地ニ向テ

(通信状況不良ニテ又五以後連絡ナレ)

一五。サン市セ着

(四)大和一号機

(一)任務

(二)全週

社勢観測

弾着観測(三)度方向(現)タル敵部隊(対)

射出機艦任務ニ就テ

直ニ敵艦見

〇八五五

敵見コ味方主力ヨリノ方位ニ度ニの埋レテ報告ス

〇九一〇

我敵機ノ追跡ヲ受クノ電ヲ發ス

敵機十枚ノ数枚ニ墮過(雲中ニ墜退ヲ試ミタルモ其ノ向被弾ノ多ク操縦困難トナリタルヲ以テ其ノ旨報告

〇九三〇基地三向ヲ

三四。

「サン市セ」ニ解着

(ハ)長門一号機

(一)任務

サマル島北東海面ノ敵部隊捜索(右)レテ灣方面敵

情偵察

(二)全週

一一四五

射出機艦

レイテ島北

東海面ノ敵ヲ捜索スルモ敵

情ヲ得ス

引續キ高度約七〇〇メートルレイテ灣ニ墜

三 戰果及被害

(1) 戰果 (第一戰隊ニヨルト認ムルモノ)

擊手沈 空母一隻 巡洋艦一隻 大型驅逐艦若クハ

巡洋艦一隻

擊破 空母二隻 巡洋艦一隻 驅逐艦一隻

飛行機擊墜 五十機以上

(四) 被害

大和 被爆 三

武藏 沈没

長門 被爆 三

四 戰訓

水上戰鬥戰訓

一 一般的事項

(1) 二十五日、レイテ湾外ニ敵機動部隊ヲ捕獲シ得タルハ實ニ天佑ト謂フニシテ第一遊撃部隊ニ敵撃滅ノ好機ヲ與ヘシトタリ二十四日戰鬥狀況ヨリ見テ敵ハ我ガレイテ湾突入ヲ豫想セザリシ如ク電報ノ模様ヨリ見テ頗ル狼狽セシモノノ如シ

(2) 味方部隊ノ追撃出足稍々遅クルト敵ノ逃走速カニシテ彼我ノ距離離隔セル爲メ緒戦ノ戦果不充分一部ノ敵ヲ逸スルニ到レリ追撃出足ノ遅レル原因左ノ如シ

1. 前日來確タル敵情ヲ得ズ自隊索敵隊形ヲ以テ南下中敵機動部隊ト啞嗟會敵セルコト

2. 二十四日、狀況ニ鑑ミ二十五日早朝ヨリ對空戰鬥必至ト見テ

866T

輪形陣制形ヲ急ギツ、アリシ時ナリシコト

(ハ) 敵ハスコールト煙幕ヲ巧ニ利用シ遁走シ爲ニ我ク射撃効果ヲ充分發揮スルニ到ラザリキ

(ニ) 追撃戦ニ移リタル後敵後衛ハ味方部隊ニ對シ魚雷ヲ發射我ク追撃ヲ阻止セリ大和ハ敵魚雷ヲ非敵側ニ回避シタル爲敵ト距離離隔シ爾後追及ニ時間ヲ要シタリ

(ホ) 追撃戦中敵ハ飛行機ヲ以テ我ニ有効ナル攻撃ヲ加ヘ我ガ水上戦艦ヲ防空ホリ先頭隊ノ巡洋艦戦隊ニ對スル攻撃激烈ニシテ巡洋艦ニ落伍艦ヲ生ジタリ

(ヘ) 追撃戦ニ於テ第七戦隊ノ落伍艦ヲ生ジタルト及水雷戦隊ノ追索遅レタル爲追撃ヲ不徹底ナラシメタル憾アリ

(ロ) 各隊ヨリノ局部戦況報告ヲ缺キタル爲最高司令部ニ於テハ過早ニ各隊ノ集結ヲ令シ殲滅一步手前ニテ各隊追求ヲ

50

中止スルニ到レリ

〔註〕第三艦隊司令長官ヨリ、各隊逐次集レヲ令シタル時第

五戦隊(羽黒)利根ハ敵空母隊ニ逼リ砲雷撃中ナ

リシモ本命令ニテ引揚ゲタル

二、敵、砲戦

(イ)水上戦闘ニ於テ敵ハ熾ニ對空彈ヲ使用セリ防空巡洋艦

ノ如キハ水上彈ヲ有セザルヤニ知レズ

(ロ)敵艦發砲ノ閃光ハ一斉打方ニ非ズ

(ハ)敵後衛部隊ヨリスル中口径砲水柱ヲ見タル程度命中精度

良好トハ認メ難シ

(ニ)煙幕裡ヨリ敵ノ閃光ヲ認メタルヨリ判断シ敵ハ電探射撃ヲ

實質施セレモト認ム

三、我が砲戦ニ就テ

會敵時敵、逃足ヲ留ムル手段ハ飛行機ヲ有セザル第一遊撃
 部隊トシテハ迅速ナル主砲射撃ニ依リ先制敵ノ空母ヲ撃
 破スルニアリタルモ我が追撃時機遅レタルニ關聯射撃開始時機
 モ亦遅レタリ 今三分射撃開始時機早カランニハ劈為頭
 敵ニ大打撃ヲ與ヘ爾後、追撃戰戰果ヲ徹底ナラシメタル
 モト認ム

〔註〕大和ハ三一〇ミルニ於テ敵ノ一空母ニ對シ射撃開始シ
 ニ齊射ヲ以テ之ヲ撃破セルヲ以テ他ノ二空母ヲ攻撃シ一
 ニ黒烟ノ上ルヲ認メタルモ其ノ中ニ姿ヲ煙幕ニ没シ射撃
 中止ノ已ムナキニ到レリ

敵ハ我が主砲ノ射撃開始ヲ見ルヤ煙幕ヲ巧ニ展張セリ此
 場合速ニ煙幕艦ヲ撃滅スルヲ要ス

〔註〕大和ニアリテハ主砲ヲ以テ齊射ニ依リ一煙幕艦ヲ

專轉沈セシメタリ

(イ) 本戦闘ハ概ネ敵ハ煙幕及スコール中ニテ味方ノ射撃ヲ不利ナラシメタリ 夜間ノミナラズ晝間ニ於テモ電探射撃ヲ實施シ、機會アリ

(ニ) 本戦闘ハ吐嗟戦闘ナリシ爲第一戰隊觀測機ヲ豫メ出シ砲戰ニ備フルト能ハザリキ 追撃ニ移リタル後後部砲塔ヲ使用セザルヲ幸ヒ 觀測機ニ機ハ急速準備ヲ命ジ 戰鬥中ニ射出敵情ヲ偵知セシムルト共ニ砲戰觀測ニ利用ヲ圖レリ 然レドモ敵戰鬥機ニ我ガ行動ヲ制す所セラレ 彈着觀測ヲ實施シ得ザリキ

對空戰鬥戰訓

一 菲島沖海戰ニ於テ第一遊撃部隊ノ實施セル對空戰鬥ハ三日間ニ亘リ其ノ回数實ニ十五回ノ多キニ達シ幾多貴重ナル戰訓ヲ殘シタルモト認ムルモ格括的ニ見テ左ノ結論ニ到達スルモト認ム

258

の敵ノ熾烈ナル空襲ヲ冒シ敢然敵上陸地点ニ突入スルノ悲壯ナル決意ノ下ニ計畫シ訓練ヲ重ネタルヲ以テ從來ノ比シ對空戦力ハ一段ノ向上ヲ認ムルモ敵機撃墜數ヨリ見テ猶前
途遼遠ナリト感ヲ深クセリ

④ 本號作戰以來訓練ヲ重ネ對空兵裝ノ改善ヲ行ヒタル結果其ノ成績定ニ見ルベキモノアリタリト認ムルモ將來更ニ對空兵裝ヲ強化シ之ニ劃期的改善ヲ施スト共ニ訓練上モ亦幾多改善スベキモノアリト認ム

二敵機、攻撃要領

從來、戦訓ニ明カナルモ特ニ氣付キタル点左ノ如シ

(四)概ネ三五料及至四〇料ニ集團群ノ次々ヲ顯ハシ悠々攻撃對
勢ヲ執リ同時攻撃ヲ企圖ス

急爆隊ハ從來通太陽ノ方向ヨリ断雲ヲ巧ニ利用シ吾ニ攻
迫ス

(四)雷撃機ハ急降下爆撃機ニ引續キ來ルヲ一般トシ爲ニ我
ガ雷撃回避ヲ比較的容易ナラシメタリ

(四)大部ノ敵機龍撃終了後我ガ虚ニ乘ジ單機突入シ
來ルモノアリ警戒戒ヲ要ス

(二)我ガ戦闘機ヲ伴ハザルヲ知リタル爲カ敵戦闘機ノ隨
伴セルモノ極メテ尠シ

(六)急爆隊

(ハ) 雷撃隊

1. 急降下開始ハ三〇〇米高角七〇乃至八〇度ト認ム
 2. 数機連続爆撃セルモ、概ネ同時ニ來ルモ、ハニ、三機ナリシヲ以テ回避比較的容易ナリキ
 3. 一機、爆彈(三五番以下ト認ム)二個ナリ但シ一部緩降下ヲ以テ三彈乃至四彈投下ノ反跳爆彈ヲ見タリ
 4. 爆彈落下高度ハ概ネ七〇〇米乃至一〇〇〇米ト認ム
 5. 急爆ニシテ銃撃ヲ併セ實施セルモ、アリ
1. 日本、雷撃機ト稍運動ヲ異ニシ緩降下ノ如キ運動ヲナシ太短キ魚雷ヲ投下ス
2. 投下距離ハ三〇〇米程度ノモ、多シ但シ武蔵ニ來リタルモ、ハ勇敢ニシテ一五〇〇米乃至一〇〇〇米ナリシト謂フ
- 大和ニ於テハ三ノ数本ノ魚雷ニ會シタルモ概ネ遠距離ヨリ

發射シタル爲全部回避スルコトヲ得タリ
 (ハ) 水平爆撃隊 (B-24)

四〇〇米、高度ヲ以テ二群ニ分レ大和及榛名ヲ爆撃セリ白隊
 二來ル爆撃隊ノ判定ハ容易ニシテ且充分餘裕アルヲ以テ對
 空砲火威力ヲ發揚シ得バク落付キテ射撃スルノ要アリ
 (イ) 敵機、爆彈若ハ魚雷投下距離ハ味方砲火熾烈程
 度ニ依リ差異アリ 砲火熾烈ナル場合ハ遠距離ニテ落下ス
 三、敵ノ目標選擇

(ウ) 第一群輪形陣ニ於テハ大和、武藏ニ其ノ目標ヲ指向セシモト
 認ム

(四) 雷撃機ハ中心艦ヨリハ寧ろ口外圈艦ヲ狙ヒタルモノ多カリシガ如シ
 (イ) 集團主力ノ襲撃後一、二機ヲ以テ警戒艦タル驅逐艦ヲ攻撃
 セルヲ見タリ

(二)「シブヤン」海ニ於ケル對空戦闘ハ二個群ノ輪形陣ヲ以テ實施セラレタルモ先ヅ敵機ノ取付キタル群ヲ先ニ攻撃スルコト多カリキ第一群先頭ノ場合常ニ攻撃ヲ受ケタリ

(三)損傷艦分離セル場合之ニ攻撃ヲ集中スル傾向アリ注意ヲ要ス
 四「あ」號作戦以來EW泊地ニ於テ三月ノ訓練及同作戦ト直後實施セル對空兵装ノ強化ハ充分ニ其ノ成果ヲ發揮セシメト認ム

二十四日ヨリ二十六日ニ懸念ケ前後十五回ノ熾烈ナル對空戦闘ヲ實施シ其ノ間各艦共多少共被害アリタリト雖モ甚ク戦力ノ保持シ二十五日ノ水上戦闘ニ參加スルコトヲ得タルハ此ノ結果ニ他ラズ

五高角砲及機銃何レモ砲(銃)員ハ勇敢ニ戦闘ニ從事セリ敵機ハ爆撃ト共ニ銃撃ヲ實施シ彈丸飛來セシ外至近彈片多數砲銃側ニ飛散シ戦死傷者ヲ相當數出シタルモ砲(銃)員ハ軍紀

054

ハ極メテ嚴正ニシテ勇敵ニ戰鬪ニ從事セリ特ニ軍裝機銃及此ノ
度増備ノ聯裝機銃ハ既設銃ノ如キ覆塔ノ防禦ナク甲板ニ暴
露シアリ彈片及主副砲爆風ニ晒サレソツモ勇敵ニ操作セリ

六各艦ノ成績ニ就テハ不明ナルモ大和ニ於テハ左ノ点極メテ美事
ニ妥實施セラレ得タルモノト認ム

(四)見張機関ト射撃機関トノ連繫

見張用電探ヲ極メテ有効ニ活用シ餘裕ヲ以テ敵機ヲ發
見對勢ニ應ジ目標選擇砲火指向法極メテ適切ニ指導
セラレタリ

(四)對勢複雑ナル上大轉舵中ノ射撃多カリシニ拘ラズ各砲銃

群指揮官ノ對勢判斷砲火指向法適切ニ行ハレ此カモ虛
隙ヲ生ジタルコトナク平素訓練ノ成果ヲ遺憾ナク發揮セシモ

ノト認ム

三、改善策（兵装及訓練上）

機銃

今次戦闘ニ於テ機銃ハ他ノ對空兵装ニ比シ有効ナリシエノト
認ムルモ將來猶左ノ点改善ノ要アリト認ム

1. 二十五耗機銃ハ命中ヲ認ムルモ一彈ノ威力ノ不充ナルヲ擊

墜スルニ到ラザルモノアリ現機銃ヲ以テシテハ急降下中爆彈

ノ下ニ敵機ヲ擊墜スル如ク尠クモ四十耗機銃ニ改裝ノ

要アリト認ム然レドモ右改裝困難ナリトセバ差出ル對

策トシテ高角砲ノ善用噴進砲ノ裝備ヲ併セ實施スル外

機銃裝備數ヲ増加シ多數彈ヲ以テ公算的ニ命中率ノ

増加ヲ圖ルヲ要ス

2. 機銃ノ照準發射訓練ニ一層急ヲ須ツルノ要アリ

從來ノ訓練ハ照準發射ノ良否ノ檢討不充ナルヲ認ムルモ

9 55

(四) 主砲及副砲

ニシテ小銃射撃式ニ其ノ彈跟ニ依リ其ノ結果ヲ檢討スル
ノ方式ヲ採用スルノ要アリト認ム

敵機ノ對シ曳跟ハ概不良好ニ指向セラルルモ命中率ハ
三種ノ教育ヲ等閑視セル結果ト認ム

1. 敵機ガ未ダ分散セザルニ乘ジ主砲ヲ以テスル遠距離射撃
ハ有効ト認ムルモ操作鈍重ニシテ今回ノ戦闘ニ於テハ充分其ノ

能力ヲ發揮スルノ域ニ到ラザリシモノト認ム將來一層研究訓練
ヲ要スルモノト認ム

註 敵機群ニ近ク彈着セル為ニ隊形ヲ乱シテ避退セシモノアリ
又遠距離ニ於テ擊隊セルヲ見タリ

- 2. 大型機ノ水平爆撃ニ對スル訓練ハ猶不充分ナリ
- 3. 大和型副砲ハ照準裝置ノ構造敵機ノ見張目標搜索補

高角砲

提ニ適當ナラズ目標ノ指示装置装置ヲ要ス

4. 副砲ハ遠距離目標ノ射撃ヲ行フヨリハ寧ろ初メヨリ雷撃機
専門ニ充當スルヲ最モ有効ト認ム敵雷撃機ハ急爆隊ニ注意
ヲ引ケル虚ニ乘ジ來ルヲ常トシ副砲ヲ之ニ附スルハ高角砲ト認
ム

今次戦闘ニ於テ高角砲ハ改善ノ餘地大ナルモアラフヲ認メタリ即

高射装置ヲ完全ニ使ヒコナスニ對シテ對勢變化大ナル高角機

ニ對シテ熟ナシトセズ

改善事項左ノ通

1. 指揮官ノ演練不足ニシテ充今高射機ヲ掌握スルマデニ到ラス

2. 敵機ノ動キ單調ニシテ餘裕アル場合有効ナル射撃ヲナシ得

ルモ少シ複雑トナラバ之ニ應ジ得ズ迅速ナル測距(目測)對

56

勢ノ變化急ナル場合、射撃諸元、調定等敏速ナル操作ニ
習熟セシムルコト

(二) 各艦防空指揮所ハ狹隘ニシテ四圍ノ見透不良ナルヲ常トス特
ニ後方ヨリスル敵機ニ對シ不安アリ改善ノ要アリト認ム猶情
許セバ後部防空指揮所ヲ設置スルノ要アリ

八 教育訓練

の 軍紀教育

銃撃及至近彈々片ノ中ニ在リテ微動ダモモズ落付キテ照準發
射ヲ行ヒ得ルハ一ニ嚴正ナル軍紀ニ依ラザルベクラス今次戰鬪
於テハ遺憾ノ点ナカリシハ寔ニ喜バシキコトナレドモ平素充分
ノ教育ニ意ヲ須フルノ要アリ

四 現對空射撃訓練ハ適當ナル目標ヲ得ラザルト其ノ射撃成
果ノ檢討法ヲ缺ク為寔ニ不充分ナリ速ニ改善ノ要アリト認ム

九、砲員、銃員、防衛

- 1. 艦隊ニ目標隊トシテ戦闘機若ハ艦爆隊ヲ附スルコト
- 2. 備弾射撃要具ノ整備
- 3. 命中彈調査

今次戦闘ニ於テ至近彈々片及銃撃ニ依リ相當數ノ戦死傷者ヲ出セリ砲員銃員ノ防衛ニ付左ノ点改善ノ要アリ

ト「マンドレット」系系道疊ハ至近彈防止上有効ナリ

[註]機銃ノ覆塔ヲ母員通シ又覆塔ノ破片散乱銃員ヲ

ヨ員傷セシム至近彈ハ下方若ハ側方ヨリ入込ミタルモノ多ク

ニ鑑ミ覆塔内ニ初メヨリ「マンドレット」様ノモノヲ織込

儀装スルモ一方法ト認ム

2. 銃員砲員用鉄兜防弾チョッキヲ増配スルコト

3. 主副砲射撃爆風防禦爲飛行服様式帽子ヲ配スルコト

57

十、輪形陣及回避運動

1. 輪形陣ハ對空砲戦上有効ト認ム。但シ外圍上ノB若ハCハ中心艦ノ單獨回避ニ倣フ、餘リ自艦ノ不和ノ運動ヲ敢テスル(對魚雷)ハ適當ナラズ充分單獨回避ノ餘地ヲ残シオク必要アリ。從ツテ中心艦ト外圍艦ト距離ハ若干開キアル三料乃至四料ヲ可ト認ム。
2. 落伍艦ノ警戒及輪形陣ヨリ分離スル時機ニ関シテハ充分考慮シ空襲ノ間隙ヲ見テ實施スルヲ要ス。敵機ハ落伍艦ヲ徹底攻撃スルノ傾向アリ。
3. 現對空戦力ヲ以テシテハ回避運動ハ絶對必要ナリ回避ヲ止メ砲火ヲ以テ敵機ヲ喰止ムル術力感ニ到達シテラザルモト認ム。
4. 最初ニ損傷セル艦ハ砲力及運動力ヲ奪ハルルヲ以テ次回ヨリ敵機ノ命中ヲ益良好ナラシメ遂ニ立ツ能ハザルニ到ルヲ以

通信ノ部

テ一回避ヲ慣レザル最初ノ一二回ハ特ニ警戒ヲ要スルモノト認ム

砲側準備彈藥ハ勤モスレバ多キニ過ギ誘爆ノ虞大ナリ對空戰闘ノ間隙ハ今次ノ經驗ニ鑑ミルニ相當ノ餘裕アリ次回ノ準備ニ間ニ合フヲ以テ過度ニ多數彈ヲ砲(銃)側ニ備ヘザルヲ可トス

今次戰闘ハ殆ンド對空戰闘ニ始終シ從ツテ一舟ノモトニ闘ニ於ケル場合ト相當趣ヲ異ニスルモノト認メラルモ彼我航空兵力ノ現状ニ於テハ將來ニ於テモ或ル程度今回ノ經驗ヲ述ルベキモノト想像セララルニ付左記戰訓中通信施設ニ關スルモノハ速ニ實現施ノ要アリト認ム

58

記

軍艦大和ニ於ケル捷一號作戰通信戰訓
通信施設

空中線展張ニ對シ徹底的改善ヲ要ス

對空戦闘ノ熾烈ナル現在ニ於テ現状ノ送受信空中線ノ展張
法ヲ以テシテハ別表ノ如ク敵ノ被爆竝ニ自艦ノ對空砲火ニ依リ
其ノ大部ハ被害ヲ蒙リ切斷落下シ漸ク應急空中線ヲ以テ
當面ノ通信ヲ辛ジテ實施シ來ル狀況ナリ加フルニ被害ニ依リ
切斷落下セル空中線ハ送信勢力ノ誘導竝ニ雜音ヲ生起シ
メ受信ニ妨害ヲ生ゼシムルコト大ニシテ受信力ヲ著シク減退
セシメタリ右ノ狀況ニ鑑ミ左ノ如キ對策ヲ絕對必要トス
1. 空中線引揚主索(メツセンジワイヤ)ヨリ多ク、空中線ヲ垂下展
張セシムルハ絕對改良ムルヲ要ス

2. 展張空中線ハ何レモ船体ヨリ船体ハ展張シ且船体ヨリ一米以上離隔スルハ不利ナリ
3. 船体ニ沿ハシメ船体ト裝備碍子ニ依リ約十程程度間隔ヲ保ツ如クシ現在ノ應急(船体附着)空中線ヲ改善シ之ガ裝備数ヲ全空中線ノ約半数トス
4. 受信空中線ノ大部及送信空中線ノ一部ハ絶縁線ヲ使用ス
5. 長波送信空中線ハ被害ヲ蒙ル機會大ナルニ之ガ復旧ハ極ムテ困難ニシテ應急空中線ヲ以テシテハツノ輻射極メテ不良ナルニ加ヘテ受信空中線ノ被害ト併考スルトキ通達能力著ク減少シ戦闘場面ニ於テハ殆ンド使用シ得ザル状況ニナルヲ以テ長波使用ニ関シテハ更ニ檢討ヲ要ス
6. 受信空中線ニ使用ノ碍子ハ重鈴型ヲ廢シ卵型碍子トシ小型ニ改善シ之ヲ二個以上直列使用ニ改ムルヲ要ス

以被爆對策用トシテ供給サレタル銅覆銅線ハ全ク其効果ヲ認メズ

(四) 對空戦闘時戰艦ニ於テスラ第一受信室ニテハ全ク受信不能ナリ之ガ原因ハ對空射撃ノ震動ニ因ル受信機並ニ受信電球ノ震動及射撃ノ騒音ニ因ルヲ以テ受信機並ニ受信電球ノ震動防止並ニ航空機用受聽器ニ因ル騒音防止ノ對策ヲ構ズルヲ要ス

(五) 應急器材ノ供給ヲ要ス

1. 現在ニ於テハ應急用空中線トシテ「キヤプワイヤ」六耗程度ノモ、戰艦ニ於テ最小限五〇〇米ヲ必要トス

2. 應急用要具ハソノ供給極メテ僅少ニシテ對空戦闘並ニ砲戰短時間ノ間隙ニ急速復旧ヲ要スル應急作業ニ於テ要具ノ不足ハ今期戦闘ニ最モ痛感セルトコロニシテ最少限左記要具ノ

供給ヲ要ス

應急要具嚢

五組

要具嚢内譯

小	回	側
	螺	断
	子	嵌
		子
個	個	個

二通信計画

以該處既使用スベキ電波ノ選定ハ混信狀況等ニ関シ事前ニ於テ慎重研計シ決定スルヲ要ス

今次ノ戰鬪ニ使用ノ艦隊一般短波セ九〇KCハマニラ氣象放

送電波セルセ五KCノ妨害ヲ受ケ三ノ通トノ通信極メテ不

良ノ事アリ殊ニ二十四日晝間ハ殆ンド通信不能ニ終レリ

尚本件ニ関シテハ事前連絡シアリシトコロナルモ對策ヲ講

ゼザリシハ甚ダ遺憾ナリ

60

(四) 長波ハ前記通信施設、被害ト併考シ之ヲ使用セザル如クナスノ要アリ

(イ) 水上部隊ト関係基地及通信隊ヲ一母トスル重要通信系ハ左記ヲ考慮シ設定ヲ要ス

1. 最モ迅速ヲ要スル基地ト、直接通信連絡

2. 現在各艦電信員ノ配員狀況(人員並ニ人的要素ノ不良)及被害時、通信力減耗ヲ考慮シ通信系並ニ待受ヲ極力減少セシム

(二) 作戦場面ニ関連スル通信隊ハ作戦部隊ニ對シ積極的ニ協力セシムル如クナスヲ要ス

今次作戦ニ於ケル三十一通ト、通信特ニ二十四日通信不良ナリシハ通信指揮ノ不徹底ニ依ルモノト認メラルル点ヲ有スルモ計画上充分考慮ヲナスノ要アリト認ム

水上機隊派遣基地ト通信ハ基地通信カヲ考慮シ殊ニ迅速

ヲ要スルニ通信ノ速達ヲ計ル如クナスヲ要ス

三電信員ノ補充改善竝ニ増員ヲ要ス

今次ノ戦闘ニ於テ二十四日ヨリ二十六日ニ亘ル三日間電信員ハ概ネ

一直半ノ状況ニアリ加ヘテ連續スル對空戦闘ニテ應急作業

ニ依リ休養ノ暇皆無ノ状況ニアリ加ヘテ約半數ハ若年兵ノ

ルヲ以テ古參者ハ甚多シク過勞ノ何トナリ如何ニ精神カラ以テ

シテモ疲勞ニ依ルニ通信力減退ヲ防止シ得ガレ状況ニアリテ若シ之

以上戦闘長期ニ亘ルヲ想起セバ寒心スベキ事態ニ到達スベキ

ヲ要ス

連交教育終了ノ一水ヲ以テト且ニ通信員トシテ充員スルハ明日ノ戦闘

ニ支障アリ少クモ二月ハ之等一水ハ定員外トシテ兼務セシメ然ル後交

代者ヲ轉出セシムル如キ方法ヲ執ルニ要アルト同時ニ現在ノ缺員

ヲ外

ヲ速カニ補充スルコト緊要ナリ

四、敵信班ヲ艦隊旗艦ニ集中スルハ指揮統制上極メテ有効ナルモ

艦隊旗艦事故カルトキハ一與手ニシテ機能ヲ停止スルニ至ルベキヲ

以テ一部艦隊豫備旗艦又ハ戦隊旗艦ニ分散シ艦隊旗艦

ニ於テ之等ヲ指揮統制スル如クナスヲ可ト認ム

五、暗號書表ヲ各戦闘配置ニ分散格納スルハ極メテ必要ナリ

之ヲ格納所皆無ノ状況ナルヲ以テ速カニ新設ヲ要ス

六、重要信ハ必ず相手ヲ了解ヲ確ムルヲ要ス、要スレバ電

信電話ヲ併用スルコト肝要ナリ

(別表)

空中線被害並ニ復旧状況 (軍艦大和)

月	日	回	発見	來襲	大和	電	送	機	係					
一	四	二	五	艦首至近	六本	落下	十八本	二本	落下	四本	本	四本	落下	十三本

六 一五 四	五 一三 五	四 一三 一	三 一三 一	二 一〇 〇	一 一三 三	前部兩舷至道彈 一	五 一五 五	四 一四 三	三 一四 五	二 一三 〇
三 〇	一 二	七 二	五 九	七 五	二 四	前部兩舷至道彈 一	八 五	二 九	二 四	二 四
前部兩舷 至道彈 一		船中計至道彈 一 船後部至道彈 一 船中計至道彈 一			前部兩舷至道彈 一 船中計至道彈 一		後部兩舷至道彈 一 前部兩舷至道彈 一	前部兩舷 命一		前部兩舷至道彈 一
三本落下		二本落下			二本落下		二本落下	三本落下		七本落下
十二本 (五本復旧)		十本		十三本 (六本復旧)	十一本 (五本復旧)		九本	十一本 (三本復旧)		十一本
		二本落下			五本落下		一本			二本落下
		六本 (三本復旧)			六本 (三本復旧)		一本	六本 (四本復旧)		二本
一本落下		二本落下			一本落下		四本落下	一本落下		
九本 (二本復旧)		八本			十一本 (三本復旧)		九本	十三本 (二本復旧)		

62

航空ノ部

一 現觀測機ノ性能ハ不充分ニシテ艦隊戦闘ニ不適ナリ
 二 航續時間最大五時間半ニシテ僅カ一八。埋進出程度偵察
 三 ガ限度ニシテ洋上偵察ニハ性能不足又基地ヨリ艦隊戦闘
 四 協力ハ不可能ナリ

備考 被害空中線ハ自艦高角砲機銃彈ニ依ルモノヲ含ム

一〇	九	八	七	六
	二〇三七	一八二〇	八二七〇	七六四〇
		八〇	一〇	四〇
	前部砲台 三連砲 五	中部砲台 三連砲 二	後部砲台 三連砲 二	
		四本落下		
	二十四本 (十一本展張)	十三本 (五本復旧)		
		一本落下		
	十六本 (四本展張)	十二本 (四本復旧)		

二 砲戰對勢觀則

④最高速カ一八五—一九〇節ニシテ操縦性能輕快ナルモ到底戰
 闘機ニ對抗シ得ズ制空權ナキ場合ノ砲戰觀測ハ殆ンド不可
 能ナリ又航續力不足セル爲飛行機發進時機モ特ニ慎
 重考慮ノ要アリ使用ヲ極度ニ制限セラル之ヲ要スルニ速カ
 航續力ノ不足ハ致命的缺陷ニシテ搭載機トシテ艦隊戰
 闘ニ協力セシムルハ不適ナリ

今次戰闘ニ於テ對勢砲戰觀測機トシテ零式觀測機二機ヲ
 使用セルモ何レモ射出後十分前後ニシテ數機乃至十數機ノ
 敵戰闘機ノ追躡スル所トナレリ

當時附近スミル多ク且搭乗員極メテ老練ナル爲良ク天
 氣ヲ利用シ敵機ノ離脱及ビ觸接ニ努メタルモ一機ハ被彈
 ノタメ飛行ノ自由ヲ失ヒ觸接ヲ失セリ

三、格納庫、利用價值

近距離ニテ接触ヲナスヲ要スル 對勢觀測 砲戰觀測等ハ
 戰鬪機ト同等乃至ハ其レ以上ハ高速機ニシテ而モ掩護機
 ヲ附スルヲ或ハ利用スベキ 斷雲 スコール 昇アル場合、他、殆ド
 不可能ナリ 遠距離砲戰ハ飛行機利用ヲ絶對有利トスル
 モ飛行機ノ脆弱性ニ鑑ミ之ニ代ルベキ方策ヲ速ニ確立ヲ要
 アリ

第一遊撃部隊水偵隊ハ對空戰鬪ノタメ基地發進ニテ艦隊
 戰鬪ニ協力スル知リ計畫セラレタルモ通信不如意ノタメ戰
 機ニ投ジ得タル偵察殆ンド無キ狀況ナリ 對空戰鬪關係
 上大部ハ基地派遣、要アルモ適時飛行偵察ヲ實施スル爲
 手持チ、偵察機ヲ常時保有シアルハ極メテ肝要ニシテ大和格
 納庫ハ其ノ點利用價值極メテ大ナリ

即チ大和搭載機ヲ瑞雲又ハ彗星 最少六機搭載、事ニ改メ
手持チ、偵察兵クトナスヲ要スルモノト認ム
〔註〕大和格納庫ハ出入口ヲモ含ムハ零式觀測機ハ八機瑞雲
彗星ハ六機格納可能、零式水偵ハ格納出來ズ

機関部

282

一、戦艦ニ在リテモ外側燃料タンクハ浸水ノ際タンク頂ヨリ燃料、
ミ移動可能、如ク管装置ヲ導設スルヲ要ス

今次戦闘ニ於テ大和ハ至近彈被害ニ依リ前部外側燃料タ
ンク空氣抜管破損シ爲ニタンクニ浸水燃料約一五〇噸使
用不可能トナレリ航續力延伸及對潜防衛上浸水燃料タン
ク、燃料モ大部分使用可能、如クナスノ要アリト認ム

二、運轉指揮所、機械部、艦部各指揮所ニ獨立冷却通風装

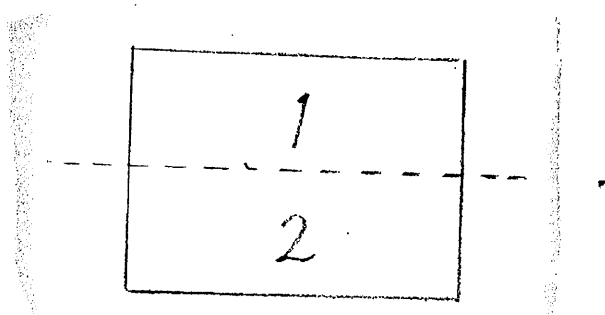
1703

64

五
行動圖及合戦圖

置裝備ノ要アリ
 防御指揮所ハ既ニ獨立冷風装置ヲ有シ戦鬪中極メテ快
 適ニ戦鬪シカリ今次戦鬪ノ如ク長時間ニ亘リテ通風管制
 ヲ實施スル場合、機関各指揮所、室温ハ四十度以上ニ達シ
 在室員、苦熱ハ正ニ言語ニ絶スルモナリタリ 高温ノ發熱
 機関ヲ至近ニ控ヘタル機関各指揮所、冷房ハ極メテ困難
 ナランモ 勘ツトモ海水冷却ニ依ル獨立循環通風装置、
 新設ヲ緊要トス

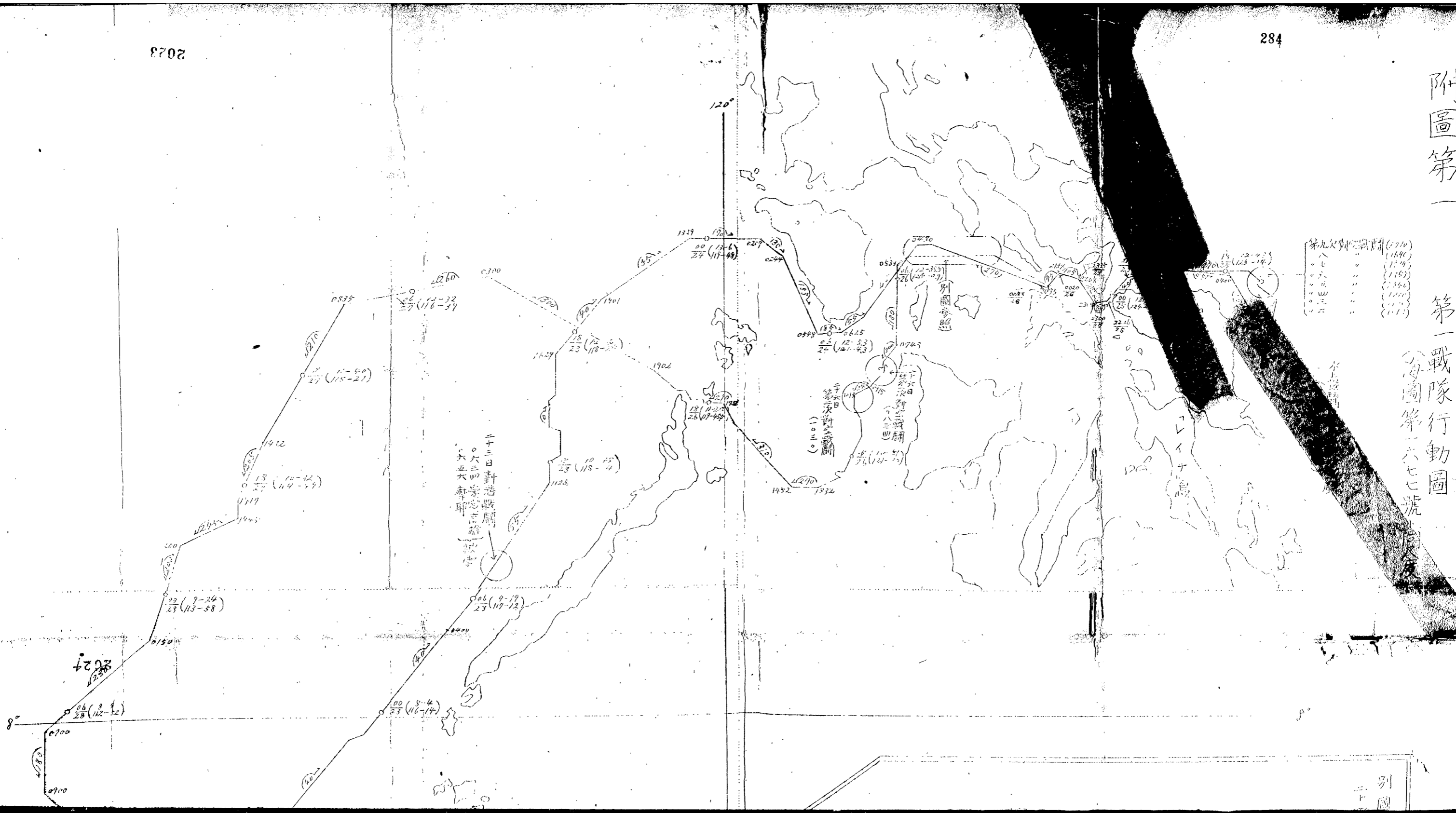
分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>59年10月24日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 山岸正雄 (印)</p>	

附圖第一

第一戰隊行動圖

海圖第一六七七號

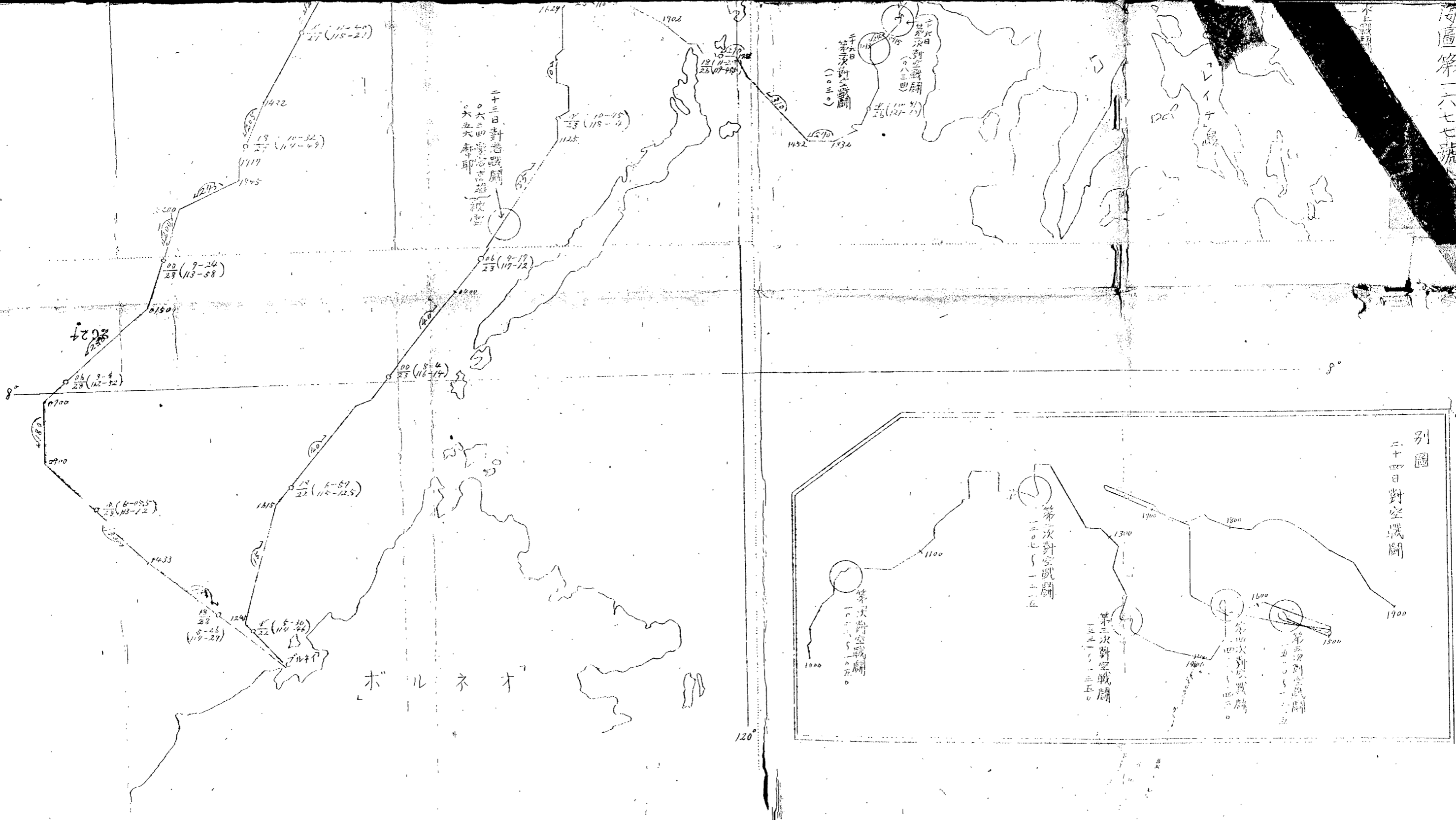


第九次對空襲	(121)
第八次對空襲	(144)
第七次對空襲	(154)
第六次對空襲	(156)
第五次對空襲	(120)
第四次對空襲	(113)

二十三日對港襲
 六三回空襲
 六五回空襲

第一戰隊
 對空襲
 (103)

2024



列圖
二十四日對空戰圖